HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	異文化間教育を目指した映像（メディア）教材の活用と教育実践の共有（その2）
Author(s)	齋藤, 眞宏
Relation	異文化間教育学会第30回大会. 平成21年5月30日～平成21年5月31日. 東京学芸大学、東京都小金井市.
Issue Date	2009-05-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/39974
Type	conference presentation
File Information	saito_IESJc30.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

異文化間教育を目指した映像(メディア)教材の活用と教育実践の共有（その２）

異文化間教育学会

2009年5月31日

於　東京学芸大学

旭川大学　齋藤眞宏

1．2008年度の短期大学部における実践から

(1)講義の目標:「越文化」

様々な「異文化」に出会い、見つめ、語り、つながる経験を提供し、vulnerableな自己存在に気づき受容し変容するきっかけを掴む。

(2)　教材観

使用教材「日本の姿第7巻イヨマンテ　熊おくり―北海道平取町二風谷」

（民族文化研究所編、1977、紀伊国屋書店）

（理由）

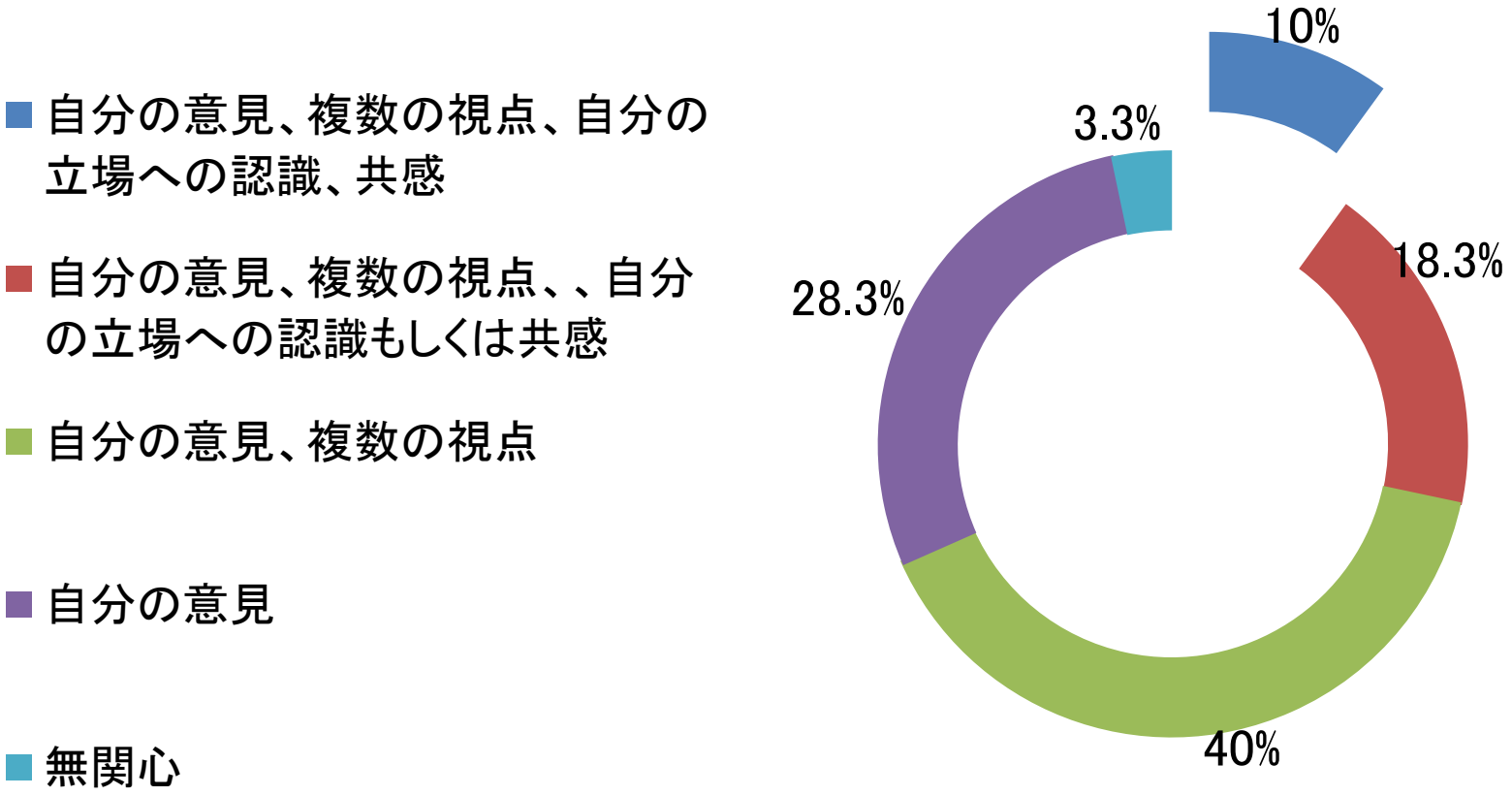
① アイヌ文化を代表する行事を収録したものであること

② 近現代日本の同化政策によりアイヌ文化の多くが失われた。→映像として残っている伝承文化はきわめて少ない。

③ 学生たちの感情を揺さぶる「受容できない文化」としての「イオマンテ」の提示

→「出会い」から「見つめ」「語り」「つながる」実践へ

（3）短期大学部学生（61名）の「イオマンテ」からの学び（2008.4.28）



(4)授業を振り返って

① 学生は異文化理解に肯定的な考えを持っているが、一方で「受容できる異文化」と「受容できない異文化」に分けて考えている。

（ある学生のコメントから）

（略）（イオマンテで熊を殺すことは）自分達があたり前に食べているからひどいことと思わないだけで、普通に考えるとイオマンテと変わりなく、イオマンテのことなどでアイヌ人を否定することは、自分達を否定するのと同じだと思った。だからといって私に理解できるか？と聞かれたら、きっとできないし、見たくもない。イオマンテについて賛成か反対かというより、私はまず理解してあげることが必要だと思う。

② 学生たちの二項対立的意識（この場合は「日本人」とアイヌ）は根強く、「異なる者」を意識させる他者に対する距離感、拒否感がある。

（ある学生のコメントから）

（略）正直やっぱり「アイヌ文化」を理解することはできないと思います。でも別にアイヌの人の前で、うわっとか言って白い目でみたりすることは絶対にしません。（略）

2. 2009年度経済学部教職課程開講科目「異文化間教育」での試行

(1) 授業テーマ

「出会い、みつめ、語り、つながる」学びの実践

(2)授業計画（全15講）

第1講　イントロダクション

第2講　「もし地球を100人の村にしたら？」

第3講　「地球の仲間たちフォトランゲージ」

第4講　「レヌカの学び」

第5講　「雪渡り」

（第6講以降はスペースの都合で省略）

(3)本時の学習単元

映像教材「雪渡り」から学ぶ他者理解

(4)本時の目標

①自分中心の考え方からなかなか逃れられないことを理解する。特に異質な「異文化」については強い警戒感を抱いてしまいそこからなかなか自由になれないことを実感することができる。

②　日常生活の中で、他者理解の際に障害になる偏見とどのように付き合っていけばよいのか考察することができる。

(5)　本時の流れ

①導入

前時の「レヌカの学び」の振り返りおよび学生のコメントの共有

異文化に接するときは

- 自分の心にある偏見に注意する
- 国や民族の違いだけではなく、地域差や個人差にも注意をする →「一人称」で語ることが大切
- 言葉とは相対的なものである

②展開

（学習内容）

- 「雪渡り」のスクリプトの音読
- 「雪渡り」の視聴

（指導上の留意点）

- 発問のところではDVDを止めて、考察の時間をとった。
- 学生たちは周囲の学生と相談しても可
- 簡単な全体との共有を行ったあとで再びDVDを再生した。

学生たちの反応の概略

発問1．あなたが四朗だったら、狐の幻燈会に行きますか？行きませんか？その理由も述べなさい。

行く（10名）

- 狐が感じがよさそう
- 楽しそうだからとりあえず行ってみる
- 不安はあるが好奇心のほうが強い
- 妹の前だからビビるわけにはいかない

行かない（3名）

- あぶない

発問2．幻燈会のときにお団子が再び出されたとき、あなたが四朗お兄ちゃんだったら食べますか？食べませんか？その理由はなぜですか？

<u>食べる（10名）</u>

- 狐への偏見がなくなったから
- 相手を受け入れることも必要
- 自分たちの持ってきたモチは狐が受け入れてくれたから
- せっかくだし、うまそうだから

食べない（3名）

- あぶないから
- 狐のことを信用していないから

③まとめ

発問3　異文化を理解するために大切だと思うことを記入しなさい

※ワーク・シートに記入して提出。次の時間で共有化

食べる派（10名）の回答

- 最初から偏見を持たないことが大切
- お互いの考えを尊重し合う。
- 相手の立場に立って考えること
- 自分から興味を持つこと
- 相手を信頼すること
- 相手の文化を体で感じること
- 他者について知ろうと努力してやってみること
- 反対の意見ではなく、賛成できるところを見つけて理解すること
- 相手を理解することは勢いが大切だし、相手を信用する覚悟が必要

食べない派（3名）の回答

- 偏見や見た目ではなくその人の意見や考えを受け入れること
- 受け入れた上で話し合ったりすることも大切
- 自分から力べをつくらない
- 相手を理解し自分を理解してもらうこと。理解してもらう努力と理解する努力

(4)学生たちの学びからの学び

- 食べる派も食べない派も「異文化理解のために必要なことは何か」という発問に対する回答の内容はほとんど変わらない。

→「イオマンテ」に比べて異文化との葛藤が見えない。

※4名の学生が異文化理解について「努力」「難しい」「最初は無理かもしれない」「面倒くさい」と表現していた

→異文化理解の難しさを認識

(5)今年度の実践のために

学生の建前への挑戦

→「異文化間理解は大切」という学生の「正解」を「ゆり動かす」ために「雪渡り」を「イオマンテ」の導入として位置づける